

会議名称	令和6年度 門真市文化芸術推進審議会
開催日時	令和7年3月28日（金）午前10時から午前11時30分まで
開催場所	門真市役所 本館2階 大会議室
出席者	（委員） 清澤委員、朝倉委員、中出委員、わかぎ委員、川島委員、山下委員 【出席人数 6人／全6人中】 （事務局） 山市民文化部長、高田市民文化部次長 清水生涯学習課長、中村課長補佐、桑原係員、大野係員、別府館長
案件	1. 本会議の公開並びに会長及び副会長の決定について 2. 今年度の文化芸術事業に関する取組みについて 3. 門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況について
傍聴者数	0人
担当部署	（担当課名） 市民文化部 生涯学習課 （電話） 06-6902-7139（直通）

【事務局】

定刻となりましたので、令和6年度 門真市文化芸術推進審議会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましてはお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ございます。

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 門真市文化芸術推進審議会委員名簿
- ・ 資料2 門真市文化芸術推進審議会規則
- ・ 資料3 文化芸術推進審議会の会議公開要領
- ・ 資料4 パイロットプロジェクトの取組状況
- ・ 資料5 関西フィルハーモニー管弦楽団との取組状況
- ・ 資料6 指定管理者指定事業実施状況、指定管理者自主事業等実施状況
- ・ 資料7 大阪・関西万博の参加について
- ・ 資料8 門真市民文化会館指定管理者候補者の選定について
- ・ 資料9 門真市文化芸術推進基本計画の取組状況

あと、こちら門真市文化芸術推進基本計画の方も机の上に置かせていただいております。以上でございます。資料に不足はございませんか。

今回、新たにご就任いただいた委員もおられますので、計画策定までの経緯と本審議会の目的を簡単にご説明させていただきます。お手元の門真市文化芸術推進審議会基本計画の冊子 37 ページ、38 ページをご覧ください。門真市では平成 19 年 4 月に文化芸術振興条例を制定し、平成 22 年 1 月には条例の趣旨を反映した門真市文化芸術振興基本方針を策定しました。平成 30 年には、条例を門真市文化芸術推進条例と改め、これまでの取り組みを振り返りながら、門真市文化芸術推進基本計画の策定に向けて、文化芸術推進基本計画策定準備検討委員会や庁内検討委員会などを開催し、令和 3 年度から 10 年間を見据えた計画を策定しました。「門真のまちをアートで染めよう」との合言葉を元に、多くの市民の皆さんを巻き込み、アイデアを募り実践していくための基盤である「プラットフォームづくり」をめざしています。

本審議会では、委員の皆様、文化芸術推進基本計画の取組状況について評価いただき、改善に向けてご意見を頂きたいと思います。

なお、任期は門真市文化芸術推進条例第 8 条第 4 項の規定にありますように、2 年となっております。

また、令和 7 年度は計画の中間見直しを予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料 1 「委員名簿」に沿って、委員の皆様をご紹介します。

願得寺住職で、元アトリリーグ門真 代表世話役の清澤委員でございます。

大阪国際学園芸術文化教育センター長の朝倉委員でございます。

チェンバリストで、門真市音楽協会音楽監督の中出委員でございます。

劇作家で演出家でもあられる、劇団リリパットアーミーⅡ座長のわかぎ委員でございます。

彫刻家で、大阪芸術大学短期大学部デザイン美術学科特任教授の川島委員でございます。

京都芸術大学芸術学部アートプロデュース学科教授の山下委員でございます。

続きまして、事務局の職員を紹介させていただきます。

市民文化部 部長の山でございます。

次長の高田でございます。

生涯学習課長の清水でございます。

生涯学習課副参事の勝連でございます。

係員の桑原でございます。

係員の大野でございます。

私、課長補佐をさせていただいております中村と申します。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、こちらはルミエールホールの指定管理者であります特定非営利活動法人トイボックスの職員で、館長を務めておられます別府様でございます。

開会にあたりまして、市民文化部長の山よりご挨拶申し上げます。

【部長】

改めましておはようございます。門真市文化芸術推進審議会の開催にあたりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、年度末の公私ご多忙の中、ご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、本審議会のお力添えにより、令和3年3月に10年計画の門真市文化芸術推進基本計画を策定まして、来年度折り返しを迎えるところでございます。7年度は国の示す第2期文化芸術推進基本計画を踏まえ、審議会の皆様に中間見直しにあたってのご意見をいただき、文化芸術を取り巻く環境の変化に合わせ、アップデートしながら、文化芸術のあふれるまちの実現に向け、計画の実践に取り組んでまいりたいと考えております。

また、4月から始まる大阪・関西万博には、本市からも地域の文化団体の皆様がイベントに出展する予定となっており、門真市の文化を市内外に発信してまいりたいと思っております。

本日は委員の皆様に、本市における文化芸術に関する施策の推進状況などについて、率直なご意見を賜り、今後活かしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げて、簡単ではございますが、開催にあたってのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、次第に沿って進めてまいります。

案件1 会長及び副会長の決定並びに本会議の公開についてに入ります。

初めに、本会議の公開について説明いたします。資料2「門真市文化芸術推進審議会規則」をご覧ください。第3条において「審議会は、会長が招集し、会長がその議長となる」としていることから、議長となる会長が決定するまで、引き続き事務局が進行させていただきます。

また、本会議につきまして、資料3「門真市文化芸術推進審議会の会議公開要領」の規定に基づき公開しておりますが、門真市情報公開条例第6条の各号に掲げる不開示情報に該当する情報を審議する場合には、議長は会議に諮り、会議を公開しないことができることとなっております。

なお、議事録を作成する必要があることから、本審議会を録音させていただきますことをご了承ください。

続いて、会長及び副会長の決定に移ります。再度資料2をご覧ください。第2条の規定に基づきまして、会長及び副会長は、委員の方々から互選していただくことになっております。どなたかご意見をいただけますでしょうか。

【A委員】

前回、会長・副会長としてご参加いただきました清澤委員と朝倉委員に引き続き入っていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

ありがとうございます。

A委員より、引き続き会長を清澤委員に、副会長を朝倉委員にとのご意見を頂きました。もしよろしければ本件についてA委員の案で賛成であれば拍手をお願いいたします。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、賛成多数により、会長を清澤委員、副会長を朝倉委員と決定させていただきます。

それでは、代表して会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

【会長】

A委員からご推薦いただきまして、引き続き会長、それから朝倉委員には副会長とい

うことで務めさせていただくことになりました。私自身は元々は建設におりまして、まちづくりのことで少し関わっておりました。特にこういう文化を通してのまちづくりと昔から関心を持っておったところでございますけれども、門真市の方から、たまたまこの推進基本計画の作成のところでも関わらせていただくことができたというふうなことを踏まえまして、現在に至っておるというところでございます。そんな流れの中で議長として務めさせていくこと、大変ありがたいなと思います。

園部市長、それから今の宮本市長と、非常に門真市のイメージアップということですね。これ非常に中心にされておりまして、今の宮本市長もその辺は強調されるところでございます。イメージアップの1つの大きな手段としてやはりこの文化芸術活動というものは大きな役割を果たせるんじゃないかと思っております。この計画が策定できましてから、毎年その進捗状況、また各専門委員の皆さん方とともに確認をしながら、今現在至っておるということでございます。

私も地元にはおりますけれども、かなり年をとっておりますけれども、もしくは中堅働き盛りの皆さん方のご意見をまとめまして、また門真市のいろいろ文化行政に参加していただければ大変ありがたいと思っております。どうぞご協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。ありがとうございます。

それでは、会長として進めさせていただきたいと思います。今日の議題でございます文化事業に関する取り組みですね、事務局の方から、よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、案件2 今年度の文化芸術事業に関する取り組みについてご報告させていただきます。

初めに、パイロットプロジェクトの取り組みについて説明させていただきます。資料4及びモニターをご覧ください。

パイロットプロジェクトとは、門真市文化芸術推進基本計画策定後の実施を見据えた試験的な企画事業であり、本事業は「協働と共創」の理念のもと、市と市民有志が新しい文化芸術を活かした魅力あるイベントを創出しながら市民活動のプラットフォームの基盤になることを目的として実施しています。

今年度は11月30日及び12月1日にKADOMA ART FES 2024を京阪大和田駅前周辺で開

催し、まちなかをアートで飾り、気軽に文化芸術に触れることのできるイベントを開催しました。また、コンサートや地元商店街のご協力のもと、キッチンカー等による飲食販売も実施しました。参加者数は延べ 4,000 名です。

今年度もコンテストを実施し、応募数 117 点から 10 点が入賞作品として選ばれました。今年度は新たに、門真の星大使・広瀬香美さんによる広瀬香美賞、ルミエールホール賞、中村工務店賞が設けられました。入賞作品はルミエールホールでも展示され、1 月 19 日には表彰式が開催されました。

また、今年度も、壁画アートの制作を行いました。弁天池公園とそよら古川橋屋上では、市内の中・高校生や、立ち寄ったファミリーの方々に壁画アートを描いていただきました。そよら古川橋屋上は今年度新た制作の場としてご提供いただき、アートに触れる機会を創出できました。12 月 12 日及び 19 日には、古川橋駅北側に建設中の文化創造図書館 KADOMADO の仮囲いに実行委員がライブペインティングを行いました。

引き続き、実行委員会に交付金を交付するとともに、市民活動のプラットフォームづくりの支援に取り組んでまいります。

続きまして、関西フィルハーモニー管弦楽団との取組みについてご報告させていただきます。資料 5 とモニターをご覧ください。

関西フィルが練習拠点をルミエールホールとしたことを機に、本市と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナー協定」を結んでいます。本市では、門真市在住・在勤・在学の方や市内の事業者・団体を対象に、楽団の活動を応援するホームタウンサポーターを募集しており、サポーターに向けた活動としてはリハーサル公開や音楽サロン等があります。

サポーター向けリハーサル公開を、今年度は 8 月 3 日、9 月 18 日、3 月 6 日に実施しました。合計参加者は 89 名でした。なお、今年度は夏休み特別企画として関西フィルが夏休み期間に開催する親子定期演奏会をリハーサル公開の対象としたことから、初めて土曜日に実施し、演奏会に合わせて通常小学生以上参加可能としているところ、4 歳以上も参加可能としました。また、門真市中学生吹奏楽団から 16 人参加し、たくさんの方にご参加いただきました。

次に、音楽サロンです。関西フィルを応援したい人が音楽に親しみ、また、関西フィルが地域に根差し、ファンを確保することを目的に、楽団員等と参加者とが気軽に対話できるサロン形式にて開催し、楽器や楽曲のことをはじめ、オーケストラの裏側や楽団の方のこれまでの経歴や経験など、楽団関係者ならではのお話をさせていただきました。10 月 18

日開催分は、初めて南部市民センターで開催し、ルミエールホールが遠くてなかなか行けないという方々には関西フィルを身近に感じていただければいい機会になったと思います。また、1月26日にはホームタウンサポーターへご登録いただいている方に対して、3月15日には対象者を限定せず関西フィルの楽団長によるお話を実施しました。

次に、中学生音楽会です。プロの演奏会を通し、市内中学生に想像力や思考力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造につなげることを目的に、中学生を対象とした関西フィルによるフルオーケストラの演奏会を実施し、市内中学校6校が参加しました。今年度も文化庁の事業を申請しましたが、不採択となったため市の予算で実施いたしました。なお、来年度に関しても、文化庁の事業へ申請したものの採択されませんでした。市の予算を使用して同演奏会を実施する予定となっています。

次に、ホームタウンかどま・アンサンブルコンサート vol. 4を4月10日に、vol. 5を9月6日に、vol. 6を2月11日に小ホールで実施しました。入場者数は合計432名でした。

次に、華麗なるニューイヤーコンサートを1月18日に開催しました。入場者数は約900名でした。チケット種別での販売枚数を見ると、約55%が市民割での購入でした。

続きまして、指定管理者の取組状況について報告します。まずは指定事業に関しましてご説明します。資料6-1及びモニターをご覧ください。

吹奏楽フェスティバルにつきまして、6月16日に実施しました。出演者は10団体で来場者数は600名でした。

るみえーる亭について、伝統芸能の保存と地域振興を目的に、今年度は6月21日、10月18日、2月21日に開催しました。来場者数は合計210名となりました。これまでは和室で開催していましたが、椅子に座って見たいという声が多かったことから、今年度より会場をレセプションホールに移し開催しています。

コーラスフェスティバルに関しまして、7月21日に実施しました。出演団体は8団体で来場者数は255名でした。

続きまして、まちかど・まちなかコンサートに関しまして、門真市民が音楽等に楽しむ機会を増やし、市民であることの誇りを育むことのできる環境を整えるとともに、市外に居住されている方が門真市に対して抱く都市イメージの向上を図ることを目的とし、9月14日に下三ツ島自治会館にて、歌とハープ奏者の清水祥江さんと、ヴァイオリンとアイリッシュハープ奏者の河内知子さんによるコンサートを、10月5日に大和田駅前広場に

て、ソプラノサクソ奏者の唐仁原加苗さん、アルトサクソ奏者の上馬場啓介さん、テナーサクソ奏者の森下夕貴さん、バリトンサクソ奏者の玉田敏洋さんによるコンサートを実施しました。

続いて、門真市文化祭です。11月2日に開催された市民芸能祭では、出演団体数は31団体、来場者数は247名でした。11月3日のダンスフェスティバルには、来場者数は825名、出演団体数は46団体でした。11月4日の市民音楽祭は、来場者数は391名、出演団体数は18団体でした。市民創作展については、11月2日から11月4日まで実施し、来場者数は3日間で延べ630名、出展数は240点でした。また、11月2日の市民芸能祭の司会進行につきましては、大阪府立門真なみはや高等学校の放送部に、11月4日の市民音楽祭は門真市民プラザ青少年活動センターKADOMA TEENS BASEで活動する高等生にご協力をいただきました。

最後に、中塚荘の常設展示室につきまして、布施寛美術コレクションなどを4期に分けて展示しました。

以上が指定事業のご報告となります。

続きまして、指定管理者の自主事業等についてご報告いたします。資料6-2及びモニターをご覧ください。

まず、ロビーコンサートにつきまして、今年度は11回開催を予定し、2月実施分までの参加者数は延べ540名となりました。

次に、ロビー展示に関しまして、入館者に楽しんでもらえるようロビーに季節に応じた飾りつけをしました。今年度は七夕飾りやクリスマスツリーなどの展示を7回実施しました。

次に、関西フィルホームタウンかどま・アンサンブルコンサートを小ホールで3回実施しました。入場者数は合計432名でした。

次に、市民の手作り作品の展示販売、ワークショップ、縁日やライブステージ等の催しを通して地域の活性化を図る門真手作り市を、7月14日、12月8日、3月16日に中塚荘で実施しました。

続きまして、えがお絵画展を7月21日から8月4日まで開催しました。第4回えがお絵画コンクールの入賞作品絵画展を市内3箇所で開催し、ルミエールホール1階エントランスでは、出展作品20点を展示したほか、全115作品を映像で見られるようにしました。来場者数は300名でした。

次に、門真市民劇団いっぽ 第 14 回公演 タマにいくならこんな館（いえ） を 8 月 11 日に正午からと午後 3 時 30 分からの 2 回公演を行いました。入場者数は合計 900 名でした。

次に、8 月 24 日にアートとゲームを楽しむサマーアートフェスティバルを行いました。来場者数は 80 名、うち子どもは 50 名でした。

次に、9 月 20 日に純烈コンサート 2024 を行いました。午後 1 時開演と午後 4 時開演の 2 回公演で、入場者数は合計 1,200 名でした。

次に、ラブリーフェスタ de ルミエールについて、10 月 14 日午前 10 時から午後 4 時まで実施し、入場者数は合計 1,200 名でした。

次に、0 歳から！五感で楽しむコンサート ようこそ絵本の音楽会へ touch the world について、10 月 19 日に小ホールで実施し、11 時開演と 14 時開演の 2 回公演で、入場者数は合計 250 名でした。

続きまして、11 月 14 日に映画「ドクちゃんーフジとサクラにつなぐ愛ー」上映会と、グエン・ドクさん講演会を開催しました。来場者数は 450 名でした。

続きまして、11 月 17 日に関学京阪 West 吹奏楽フェス 2024 in KADOMA を開催しました。来場者数は 950 名でした。

次に、令和 6 年 1 月に門真の星大使に就任した広瀬香美さんによる「門真の星大使 大使就任記念」スペシャルコンサートを行いました。12 月 1 日に開催し、入場者数は 1,090 名でした。

続きまして、アウトリーチコンサートに関しまして、小学校 4 年生を対象の文化振興事業として、小学校 7 校で合計 400 名を対象に開催しました。

次に、京阪フレッシュアーティスト・リレーコンサート門真公演～ひかりはばたく新星たち～につきて、2 月 22 日午後 2 時に開催しました。来場者数は 110 名でした。

続きまして、みんなでつくる門真の第九 2025 を 3 月 2 日午後 2 時から大ホールで開催しました。来場者数は 488 名で、合唱には約 130 名が参加しました。

続きまして、劇団壺劇屋のイマーシブシアター ルミエールの冒険を 3 月 20 日から 23 日の 4 日間、大ホールで開催しました。来場者数は合計 300 名でした。

次に、ピアノ、サックス、ヴァイオリン、ギターを比較的安価で習うことができるカルチャースクールにつきて、今年度も 1 年を通して開催しました。生徒数は各講座の合計で 47 名でした。

続いて、大阪・関西万博についてご報告します。資料7をご覧ください。4月13日から開催される大阪・関西万博では、府内すべての市町村と一体となり、大阪の魅力を発信するイベント「大阪ウィーク」が開催されることとなっており、本市も、文化や芸術、歴史など市の魅力を発信するべく地域団体の出展に関して調整を進めております。春にはだんじり、獅子舞、夏にはひんや節及び市民ミュージカル、秋には関西フィルと広瀬香美氏のコラボレーションで出展を予定しております。万博開催を契機とした地域の活性化をめざし、引き続き、事務補助、調整等に取り組んでまいります。

続いて、文化施設等に関するご報告します。資料8をご覧ください。ルミエールホールの指定管理期間が今年度末をもって終了するため、令和7年度から令和11年度までの5年度間について指定管理者の公募を行った結果、引き続きトイボックス様に指定管理を行っていただくこととなりました。

また、中塚荘は歴史資料館の移転に伴う改修工事を行うため、今年度末で休館となり、令和8年度に歴史資料館としてリニューアルオープンする予定です

最後に、京阪古川橋駅北側に建設中の図書館と文化会館の機能を併せ待ち、市民の皆さんが自主的・創造的な文化・学習活動を行えるよう支援する施設 文化創造図書館について、昨年愛称の公募を行い、KADOMADOに決定しました。令和8年5月開館予定で、施設の前の交流広場は令和11年度中に完成予定です。

最後に、各イベントの開催にあたっては、開催前に、広報紙のほか、市公式 LINE で周知し、実施後には広報紙や市ホームページのフォトニュースに掲載し、実施後の情報発信にも努めておりますが、今後は X や Instagram 等の市公式 SNS での発信や LINE でのスポット配信も積極的に行っていきたいと思っております。

以上が今年度の文化芸術事業に関する取組みについてのご報告です。

【会長】

ご説明どうもありがとうございました。特に山下さん、川島さんは初めてということで、そういう方に対してということも非常にご丁寧な説明いただきましてありがとうございました。門真市の文化活動の全貌が全部大体わかったような気がいたします。この部分についてご意見何かもしございましたら、ご質問でも結構ですので、いかがでございましてし

ようか。とりあえず、これまでやってきた事業ですね、ご感想でも結構ですので。どうですか？

【D委員】

初めて門真市の文化活動の内容を見せていただきました。私はほかの高槻とか豊中とかでも文化振興会議の委員させていただいているんですけども、門真市が本当に充実した活動されているということで、正直ちょっと驚いています。

特に、この KADOMA ART FES とかは、冊子まで作られて素晴らしいなと思います。と同時に、この推進基本計画、これもすごく素晴らしいものができてる。最先端の文化振興計画じゃないかなと思うんですが、ここで書かれてることと、今回の報告を見比べると、こちら（報告）の方が割と鑑賞に留まっている。コンサートとか展覧会を見に行くっていうのが結構多いかなあと思ったんですけども。

例えば市民の方が参加していくとか、或いは最近よくされているのは、市民のアートマネージャーとかプロデュースをするような人を育てていくような、市役所が提供する側ばかりじゃなくって市民が自ら活動をしていくような事業は、何かされていたりとか、これまで実験されていることがあるのかなというのを、ちょっと聞いてみたいと思いました。

【会長】

パイロットプロジェクトということですかね？その辺りこれからですけども。

【事務局】

こちらの計画の中でパイロットプロジェクトという試験的なプロジェクトというのを書かせていただいております、その中でアートフェスティバルであったり、コンテストであったり、ウォールアートであったり様々な事業を展開させていただいて、それをまた今度広く市民の方にも広げていきたいということがこの計画の中に盛り込まれておりまして、まだ計画のご説明にはなっていないので、ご理解いただくのはちょっと今の段階で難しいかなと思うんですが、今様々なとりあえず取り組みをご紹介させていただきまして、この後の案件の中で、もう少し計画に沿った内容でこのようなことをしていますということをご説明させていただけたらいいかなというふうには思っております。

今ほど先生がおっしゃっていただいた市民が参加する事業がこのアートフェスティバル

でありまして、市民のアートマネージャーを育てていく事業っていうのは、こちらについてはまだなかなか難しいかなというふうには我々も考えておりまして、先ほど見ていただいた門真の第九というのも、市民の皆様で作られた事業なんですけれども、やっぱりその実行委員会があるんですが、その実行委員会の方がやっぱりどんどん減っているというか、次の世代につなげられないというようなご相談といいますか、お悩みを持っていらっしゃるんで、市民のアートマネージャーを育てていくというのはそういう意味でもどんどんアートを広げていく上では必要なことではないかなというふうには思っておりますので、今後の検討課題かなというふうには考えております。

【D委員】

ありがとうございます。これから楽しみです。

【会長】

Cさんどうですか。

【C委員】

私は、いわゆる彫刻の世界、芸術の世界でそういう閉じたところにしかいてないものですから、そんな中でも一応あちこち市民展やったり県展やったりっていうようなことが催しとしてされていて、そこに審査員として呼ばれて行くみたいなことは通年何回か、あるような状態です。そういう小規模であったり、ある程度その県展みたいな話になるとちょっと大規模やったり、そのところに呼ばれていって審査するみたいなことでいいですよと、そんな市民との関わりみたいなことではなくて、作品がその展覧会にふさわしいかどうかみたいなことを審査する場にしていくなみたいな関わりなんです。

そんなことしかしてないものですから、今こうやって拝見させていただいて、結構盛りだくさん事業されてるっていうのを拝見して、どこでどんなふうにこれから関わっていけるのかなというふうなことを、今から結構考えなあかんことが多そうな案件なんやなと思いつながり来させていただきました。僕、具体的に役に立ってるっていうと、審査するとか、フェアにどうやって審査するかみたいなことなんかなと思って参加してたんですけど、もうちょっと多様な関わりを持って、していくという感じなんかなと理解しております。

【会長】

残りの委員の先生は何回も経験されておりますので、大体ご承知の内容だろうと思いますので、まず最後の段階でご意見いただきたいというふうに思います。引き続きまして、次の部分ですね。事務局の方でお願いできますでしょうか。

【事務局】

それでは、案件3 門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況について、ご報告させていただきます。お手元の冊子24ページから30ページをご覧ください。

門真市文化芸術推進基本計画では、文化芸術に係る様々な施策を効果的に推進するために4つの基本方針を4本の柱として定め、この柱を元に、具体的な施策を実施しています。案件2での報告と重なる部分がありますが、ここでは、基本計画に照らし合わせながら、これまでの取組みをご報告いたします。資料9及びモニターをご覧ください。

まず、柱1 市民の文化活動の活性化につきまして説明します。

市民・団体の文化活動の支援及び地域の文化活動の支援につきまして、今年度はパイロットプロジェクト実行委員会と門真市文化協会に補助金を交付し、調整等を行いました。みんなでつくる門真の第九につきまして、滞りなく実施できるように各種関係機関との調整等の支援を行いました。大和田駅南側の暫定の空き地について、パイロットプロジェクトの開催場所として実行委員会に提供するなどの支援も行いました。

地域の文化活動の支援について、唄と踊りからなる伝統的民族芸能「ひんや節」を令和6年8月に門真市地域文化財第1号として指定しております。また、平成29年度よりふるさと門真まつりを開催しております。

身近な文化活動の促進につきまして、普段は文化芸術に触れる機会が少ない人にも気軽に楽しんでもらうきっかけづくりとなるように、今年度もパイロットプロジェクト事業「KADOMA ART FES」を実施しました。また、関西フィルのホームタウンサポーターを対象にリハーサルの様子を無料で見学できる機会を設けました。また、ルミエールホールにおきまして、季節に合わせたロビー展示や、誰でも無料で聴くことのできるロビーコンサートの実施等、あらゆる人が対象の体験型・鑑賞型イベントの創出を図りました。

学校教育での文化芸術活動の推進に関しまして、中学生を対象に関西フィルによる中学生音楽会を実施しました。また、指定管理者より小学4年生を対象にプロの演奏家によるアウトリーチを実施し、学校教育での文化芸術活動推進を図りました。また、7月より、中学生部活動地域移行の一環として、門真市中学生吹奏楽団の監修・指導等に関西フィル

や地元の楽団であるこもれびwind、門真市民吹奏楽団の皆様に行っていただいております。

次に、柱2 魅力的な文化芸術活動の充実と文化的な資本の蓄積の取組状況について説明します。

市民による多様な創造活動の支援につきまして、市民参加型の音楽講座として、音楽サロンを実施しました。また、パイロットプロジェクトにおいて、市内の中・高校生に弁天池公園とそよら古川橋屋上に、実行委員に古川橋駅北側に建設中の文化創造図書館KADOMADO 建設現場の仮囲いにウォールアートを制作していただきました。

文化芸術活動のための資金調達の支援につきまして、柱1でも紹介した関西フィルによる中学生音楽会の実施に際し、令和4年度及び令和5年度は文化庁の事業を活用し実施しました。質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保することができました。

アーティストの門真での活動の促進につきまして、ルミエールホール、中塚荘、市民プラザ、公民館における各諸室を提供するほか、「KADOMA ART FES」では、全国から作品を募集し、イベント当日に作品を展示しました。

活動場所となる施設や機会の整備につきまして、先ほどご説明しました KADOMA ART FES の際に、地域の商店街にご協力をいただき、空き店舗やお店に作品を展示したほか、大和田駅前の暫定的な空き地である市有地を活用し、アートフェスの会場として提供し、活動場所となる施設や機会の整備を図りました。イベント後には、入賞作品をルミエールホールで展示しました。また、壁画アートの実施に際し、弁天池公園や KADOMADO 建設現場の仮囲いといった公共施設を活用しました。

続きまして、柱3 市民の情報発信力強化によるシティプロモーションの推進について説明します。

個々の活動の発信力の充実につきまして、門真の第九など、撮影が必要な団体に、指定管理者より撮影者を紹介するなどの支援を行っています。

情報発信プラットフォームの構築につきまして、ルミエールホールのホームページにアーティストバンクのページを設け、アーティストとイベントの主催者、市民と繋げることを図りました。また、「KADOMA ART FES」の専用ホームページを作成し、情報発信プラットフォームの構築に繋げています。

シティプロモーションの推進に関して、令和2年11月より関西フィルと協定を締結し、音楽と活気あふれるまちづくりに取り組んでいます。また、令和6年1月には関西フィル

首席指揮者の藤岡幸夫氏を門真情熱大使に、令和6年1月には広瀬香美氏を門真の星大使として委嘱し、市の魅力を広く発信していただいております。

門真を代表するコンテンツの創出につきまして、ランドマークとなる施設である門真市民文化会館ルミエールホール等の文化芸術拠点における環境維持や改修修繕を行い、施設の整備を行っています。また、現在古川橋駅北側に建設中で、来年春に開館予定の文化創造図書館 KADOMADO の屋内と屋外にシンボルとなるようなアートを1つずつ設置予定です。

最後に、柱4 協働共創の場と機会づくりについて説明いたします。

文化芸術活動プラットフォームの形成に関しまして、「協働と共創」の理念のもと、市と市民有志が協働し、多くの市民参加・参画を期待して、新しい文化芸術を活かした魅力あるイベントをもとに創作しながら、市民活動プラットフォームの基盤となることをめざし、パイロットプロジェクト実行委員会を令和4年度に設立しました。

共有データベースやアーティストバンクの整備に関しまして、指定管理者により、門真で活動するアーティストとイベント主催者、市民をつなぐことを目的として、門真アーティストバンクを設置しています。

市役所内部での理解の普及に関しまして、市職員の文化芸術活動の参加促進を図るため、文化芸術イベント等を職員用グループウェアにて周知を行いました。また、関西フィルによるニューイヤーコンサート及びみんなでつくる門真の第九については、市労働組合の協力のもと組合員の料金補助を実施しました。また、新規採用職員向けに門真市の歴史について研修を実施しています。

事業者の文化芸術活動への参加促進に関しまして、KADOMA ART FESにおいて、地元商店街や企業に作品展示等の協力をいただき、事業者の社会貢献促進を図りました。

以上が門真市文化芸術推進基本計画に基づく本市の取組状況についてのご報告でございます。

【会長】

ありがとうございます。この基本方針といいますか、基本計画に基づいて分類しているような活動をお話いただきました。いろんな名称が出てパイロットプロジェクト実行委員会であるとか、職員のグループウェアとか、アーティストバンクとかですね、少しわかりにくいところもあるんですが、この辺また疑問がある方もおられるかと思いますが。とりあえず一通り説明いただいた後でございますので、ここでもう一度各委員からご意見いただ

いて、ひとつ進めてまいりたいと思います。副会長どうでしょうか。

【副会長】

もうずっとやらしていただいているんで、目新しいことは何も言えないんですけども。文化っていうのは、今閉じた世界にいるっていう言葉も出ましたが、そこだけに固まって、そこを発展させたらっていう発想にどうしてもなるんですけど、文化っていうのは、例えば、福祉にも関係してくるし、教育も関係してくるし、障害とか高齢とか、まちづくりとか、でこの門真市にも例えば魅力発信課、それから子ども、まちづくり、教育委員会、いろいろあると思うんですけど、今度は市役所の中での共同作業っていうかな。生涯学習課やから文化のことを向こうはやっているということではなくって、例えば福祉とか障がいって、ここ（計画に）障がいっていう言葉も出てきましたけど、実際にそれどう取り組んだかっていうのが、出てこなかったですよ、今のご説明の中で。柱2の市民による多様な創造活動の支援のところで、障がい者の参加・参画の場の充実とか、ちゃんとここに出てるんで、やっぱり市の中での協働・共通理解、要するにあの文化っていうのはどこでもずーっとこうとろけて入っていける力を持っているので、そういうことを考えると、もっと広がりも出てきて、多くの人に、今だと興味のある人を対象にっていう意識がどうしても強いんですけど、こちらから浸透していけるような。

それからもう1つは門真市の文化芸術がどうあるべきかっていうことを議論してるわけですけど、そうではなくてこの京阪沿線が住みやすいまちを、守口、門真、寝屋川、枚方、交野とか。というふうにちょっと広い範囲で見て、例えば寝屋川市の生涯学習課と会議を持つとか、それからもう一層連合体を作っちゃってですね京阪沿線文化振興、何とかみたいな作ってそこで議論をして、1つの市ではできないことが、お互い出し合うことによって、大きな塊の魅力になるとか、そういう発想が今後要るのかなあとすると、ふと今思いました。

それからもう1点は関西フィルが非常に積極的に活動関わったりしてくれてるんですけども、おそらくですね、関西フィル的には将来の聴衆を育てるためっていう、大命題があるので頑張ってるんだと思うんですけど、やっぱりそこにファンが集まってくるとか、関西フィルにとっても、門真で活動することが財政的にとっても支援してもらえるんだと、市民からね。そういうふうな形になってくれば、なんかもうギャラもぎりぎり、入場料1,000円で5人ぐらいが出演してて、ギャラも知れてると思うし、関西フィルの逆に利益になるっていうこともやってあげるともっと励みになると思うんですね。それともう1つ

は、日本フィルのホームページみたいに、我が楽団はオーケストラ・コンサート、それから教育、それからリージョナル（地域的）な活動っていうふうにバーンとね、地域活動・教育・オーケストラ活動ってこうホームページにドーンと載せてくれてるんですけど、関西フィルのはですね、地域との何とかってホームページに出てこないですよ。実際は楽団の Instagram には地域活動がたくさん出てくるんですけど、もうバーンと打ち出していきますよって働きかけるとか、なんかそんなこともしてもいいのかなというふうに思いました。以上です。

【会長】

ありがとうございます。では、B先生どうでしょうか。

【B委員】

はい、ちょっと細かいですけど、去年の実績状況の中ですごく気になったのが門真市文化祭ダンスフェスティバルとか、みんなでつくる門真の第九、もう1つ門真市文化祭っていうのが軒並み前年度比から集客率が減ってるんですね。これって多分、初めてここにお邪魔したときよりやるのがすごい増えて、たくさんの人がいろんなことをやってるなっていうイメージだけで、またやってんねんっていう参加をしなくなってるっていう1つの表れじゃないかなと思って。それがいいことが悪いことか。いつもやってたらまた行くっていうこともあるし、何とも言えないんですけども。最初お邪魔した部分よりは関フィルさんとかの提携とか、手を広げてはると思うんですけど、実際にその稼働率みたいなものが逆に去年よりこれだけ減るのはちょっとどうかなっていうのは感じました。それと、具体的にこの冊子の29ページに100人会議のアンケートの声っていうのがありますよね。柱1だと、発表の場がない、どこでやっているのかわからない。学校での機会をふやしてほしい、場所が遠いので行けないとか。一番面白いのは、柱4の交流する機会がない、私には関係ない、と。こういうのはちゃんと載せるのは私はすごいことだと思うんですけど、この声をどこで反映してはんのかって言うのはちょっと気になりました。

それと文化庁の助成金が取れなかったら、2年取れなかったっていうのも結構私は問題だと思います。

文化庁自体の予算がべらぼうに減ってるのは私たち演劇人もよくわかってるので、それを取りに行くっていうことがとても市にとってすごい大事なことだと思うので、それを今年も取れませんでしたっていう報告するよりは、何で取れなかったかっていうことを例えば

話し合うとかそういうことした方が、私はいいと思います。

【会長】

事務局から具体的に文化庁の件に対する補足等あれば。

【事務局】

まず1点、文化庁の助成等につきまして、過去2年間は採択していただきましたが、過去に取った市町村については、駄目ですというような回答で、去年と今年と駄目だったということがございました。一応やはりなかなか文化庁の予算という枠組みもありまして、新しい市の方に予算を配分されているのかなということで、ちょっと今回は難しかったのかなというふうには思っております。

ただ中学生音楽会是不採択でしたが、今度は違う補助金を取れないかということで、今度はまた子どものためのコンサートの方にチャレンジしておりまして、また採択結果はまだわからないんですが、それがもし取れたら今は新しい方の国の補助金を取りに行こうというふうには努力はしております。

【B委員】

果敢に攻めるべきですね、あちこち。ここあかんかったら、ここからって絶対やるべきです。市の文化予算自体は門真市だけで捻出してはったら、全然足りなくなっていくと思うし、これだけ風呂敷広げていかれるのであれば、本当に国とかそういうところも巻き込んでいかないと絶対駄目だと思います。

【事務局】

あと100人アンケートの会議のアンケートの声に対する、我々としての取り組みっていうのはなかなか具体的にはできていないんですが、7年度にまたこの計画を改めて見直しをさせていただくときにも、また市民の方のお声であるとか、今後5年間でどうしていくかっていうのを改めて、この皆さんのお声を確認した上で、計画を策定、改訂の方していきたいなというふうに思っております。

【会長】

ありがとうございます。A委員どうですか。

【A委員】

引き続き務めさせていただきます。私も音楽家としての立場から見させていただくことが多いんですけども、4つほどポイントがありまして、まず第九ですね。第九もう長いことやってはると思うんですけど、聞きに来てはる人とか、出演してる方の門真市民率、どんなもんなんですかね。以前はあんまり門真に関係ない人が来てたりとか、あともうやっぱりうち音楽協会やってるので、協賛金お願いしますって言ってこられて、それで、それを出したらチケット2枚下さって行くみたいなね、感じがちょっとあったので、なんかやっぱり自主的にみんなが行くよりも出てる人の関係者が行ってるイメージがまだちょっと強いので、やっぱりもっと門真の人が本当に参加してっていうふうになるのが望ましいと思うんですけど、どんな感じですか。ご存知ですか。

【館長】

40%ぐらいです。門真率は。

【A委員】

増えてってます？そしたらいいですね。

【館長】

これに関しては僕もずっと問題だと思っていて。去年は60周年で関フィルでやるっていうことなので、特にやっぱり門真率を上げないとね、門真60周年なので。っていうことを5割を超えることを目標に、ほぼ達成できたんですけど。今年度3月にやったんですけどその時はまたちょっと減って、今40%ぐらいです。だけど、これ僕の中でずっと実行委員のメンバーなんですけど、課題にしてて、とにかく60%が門真じゃないと、やっぱりみんなで作る門真の第九っていうことで、課題にはしてます。で、中学校のコーラス部が三中だけあるんですけど、それが毎回10人ぐらい出てくれたのが、もう結構少なくなっちゃって部員が。廃部寸前だったんですけど。また去年で言うと15人ぐらいになったということで、それがまた出てくれると門真率も上がるかなと。

【A委員】

吹奏楽の人結構増えてるのに、コーラスは減ってるんですか？

【館長】

コーラスは1つだけなんですよ、もともと中学にあったのが。吹奏楽も5校あったんですけど、今3校だけになって、なおかつ地域移行で来年度に関しては、もう基本的には中学校では吹奏楽部の活動がなくなって、ルミエールだけになるというような。今38人、吹奏楽部の部員はいるんですけど3年生が9人。

【B委員】

子供が減ってるってことですよ。

【館長】

学校自体子供減ってますね。うちずっと小学校のアウトリーチコンサートで毎年毎年小学校に行ってるんですけど、ふたクラスだったのが1クラスになったりとか、1クラスの人数が30人だったのが20人になったりとか、かなりの減り具合です。なのでちょっとでもその音楽の担い手を作るためにですね、アウトリーチもやってたり、ゼロ歳のコンサートやったりとか、あといろんなところ、常に次の音楽好きを増やすようなアプローチでいろんなイベントをやって、ということですね。あとB先生おっしゃった人数が減ってるのはこれも同じ危機感を持っていて、例えばコーラスフェスティバルは7月の無茶苦茶暑い日にあったので、お客さんも暑くて来ないって言って、今年は9月に移動しました。

【A委員】

9月も暑いですよ。

【館長】

9月も暑いですけど、まだ7月の3週目よりは。

【B委員】

ただコーラスフェスティバルは去年度と大して人数変わらないんですよ。

【館長】

結構文化祭が減ってますね。文化祭が一番大きな原因がやっぱり高齢の方が出てること

が多くて、京阪バスがなくなっちゃってルミエールまで来れないとか意見すごくて、文化祭の日だけバス出せないかとかっていう話を聞いてます。

【B委員】

でも、例えば副会長がおっしゃるように、全然話が変わっていいですか。マラソンね、みんなめちゃくちゃ参加するじゃないですか。大阪マラソン、京都マラソン、神戸マラソン。大阪マラソン落ちた人は神戸マラソンに応募するんですよ。神戸マラソン落ちても京都マラソンに応募して、どっかでは走りたいっていう人ばかりなんですよ。第九もそんなふうにはならない？門真の人だけっていうよりは、何か第九やったら絶対出たいっていう人を増やすっていうような。

【A委員】

第九はやっぱりすごい人気はあるのはありますよね。あっちこっち歌いに行く人いるぐらいなんで。

【館長】

門真の第九は、なんか第九っていうと年末が多いんですけど、門真の第九はあえて年明けにやってるのは、例えば1万人の第九であるとか他の第九に出た人たちがまた出たいっていうような形で来てくれるっていうのが結構合唱団の人数が多いのが。ただ門真率はまた別の話なんですけど。

【A委員】

やっぱり門真率を上げたいなと思います。

【館長】

参加費も門真の人はちょっと安くするとか、いろんなことを今考えてます。それとコーラスをやられてる門真の団体さんまだまだ結構あるんですけど、コーラスとなかなかない合唱っていうのは違うっていうことで、その人たちが入ってきてくれないっていうのが。代表者が一生懸命口説くんですけど、第九は難しいからとか、合唱は難しいからって断られちゃったり。そこをなんとか口説いてっていうのを今やっているところです。

【A委員】

次2つ目、文化庁の落ちたとおっしゃってたんですけど、これは全国からやっぱりいろいろな催しでこれお金欲しいという人がいっぱいあって、4年ぐらい前かな。たまたま私、〇〇市にいとこがおりまして、合唱団やってるんですよ。そこで子どもの合唱団なんですけど、文化庁に応募するっていうときにね、普通に応募したら絶対落ちるからっていうのでやっぱり特質は何か普通の人を考えないっていう特別なやつをやろうって思ったらしいんですよ。私がバロック音楽してるから、子どものバロック音楽でやるみたい。ちょっと古いものとか、普通のじゃなくて、これにも古楽器を使った演奏をっていうのやったら通ったんですよ。それでやらせてもらったっていうのがあってね。だからやっぱりね普通にポンって言っても皆さん全国お金欲しいから、言ってくるから、子供のためとかいうのも山ほどあると思うんで、子供の何とかのためぐらいに、もうちょっとう特別なものを、そういうところは調べたらどうかなと思うんですけどね。

それから次、アーティストバンクっていうの、C先生は登録されてます？

【C委員】

いいえ、してないです。

【A委員】

私もしてません。というか知りませんでした。私も長いことずっと門真でやってますけど、そんな話1回も。登録したらいけないですか私は。若い人しかだめ？

【館長】

ホームページの方に、紹介を載せて。まさに比較的キャリアがない人たちが結構多いですね。

【A委員】

いや知らなかったから。その広報の意味でね。別に入れてくれっていう訳じゃないんですけど。

【館長】

関西フィルも入ってなかったりするんですけど。

【A委員】

そうですか。わかりました。なんか、いや知らなかったと思ったので、どういうふうに公募されるかっていうのとか、条件があるのかとかね。

【館長】

条件としては今言ったように比較的新人の方とか、いろんな仕事やきっかけを探してる方で、なおかつルミエールのロビーコンサートとか、いろんなのに出て実際トイボックスが関わっていいなというふうに思った人であるとか、ルミエールホールで他の自分たちでお借りになって演奏した人っていうのは載せてないんですね。うちの事業で、うちが実際見て、やってっていうふうに一応限定はしている感じなんですけど。

【A委員】

そうなんです。あと最後もう1個だけ、ロビーコンサートされてるのね。あれは、いつも思うんですけど、やっぱり音楽をやっていくの、絵画でも何でもそうなんですけど、演劇でも、やっぱり元手がいるじゃないですかすごくお金かかって。しかもすごい修行積んでやってきて、それで演奏しているのをいつも無料でされてるじゃないですか。それで、もちろん会場借りたりするのは無料でできるのはすごくありがたいと思うんですけど。やっぱりね、お客様にとってもね、いいところと悪いところがあって、タダで聞けるわと思ったらお金出して聞きに行かなくなったりね、何でもチケットだって例えばもらったら行くけど、次買わないっていう感じになったりとか。やっぱりそういうのも、例えば演奏する人にもね、今特に本当に経済的な状況が悪いから演奏家になる人が、音楽大学に行く人がすごく減っていて。美術の方はどうかあれなんですけど。みんなね、大抵ピアノ上手やったりバイオリン上手やったりする子ってめっちゃ頭いいから、みんなお医者さんになったりしてるんですよ。みんなお医者さんになりながら、自分でそっちで稼いでリサイクルするとか、で、そのお医者さんの関係のお客さん呼んでもう普通の音楽家より満員みたいなね。そんな感じになってて、それが結構ヨーロッパの人もそんななってきたてね。私も去年からウィーンにも住んでるんですけど、ウィーンの友達の子どもさんとかも、すごく才能あるけど、今からもう音楽家は大変やからってウィーンでも言ってるんです。だからこの子は、まず学校の先生にさせると。それでそのあと演奏活動させるって。まず経済的な基盤をみたいになってるから、大変なんだなって。だから余計にね、例えばその

ロビーコンサートでなんか募金箱じゃないですけど、よくヨーロッパでもあるんですけど、チケットいらんけど、聞いたらお金よかったら 100 円でもいいし 1 万円でもいいしっていう。なんかそういう感じにしてあげたら例えばそのどれだけ人気があったかとかどれだけ評価されたかっていうのをその人たちもわかると思うし。そういうことをしてあげたらどうかなって思うんですよね。そしたらまた張り切ってやる。どうせこれやっても何人聞いてもらってもタダやわっていうよりも、やっぱり自分たちの演奏で感動がこれになって返ってきたっていう感じがある方がいいんじゃないかなって、特に若い人には思いました。

【館長】

すごい面白いですね。ぜひ採用させていただきます。

【副会長】

ちょっとよろしいですか。第九についてしゃべると大分時間とってしまうんですけど、第九を門真でやろうっていうときに、どなたがどのような形で始められたんでしょうか。

【館長】

市制 50 周年のときに、何か盛り上がるイベントをやろうということで始まったというふうに聞いております。もう今から 10 年前なので、私はその当時のことは存じ上げないんですが。

【副会長】

全国的に第九の合唱っていうか、団は減ってきているんですね。理由は、やっぱりオーケストラを雇ってお金がかかることと、ほとんど自主公演ですので。それと高齢化ですよ。まずこの門真でお客さんっていうか、集まらないのはオーケストラじゃないっていうことですよ。第九本来の、例えば全楽章やって初めて第九ってのは完成するわけで。私に関係してる、とある第九合唱団ですけど、これも何十年も続いているんですけど、これ何十年もなぜ続いているかという、日常的に活動をやっているからなんです。だから 12 月に第九の本番はあるんですけど、この合唱団一年中存在してるわけですよ。そして、他の合唱曲も歌い、合唱のコンサートに出て、そして最後の目的が第九と。機関誌も発行して、やっているんですね。そしてその中核になる人は第九を愛してる人がずっと苦勞してやっているわけですけど。だから、毎年新しい人入ってくるんですけど、それでもやっぱり人数足

りないということで、オーケストラで第九やりますからって言ったら、その時だけ、その日だけ来るんですよ、リハーサルに。そういう人がいっぱいいるんです。そのときだけに歌えたらいい。だから、もし門真で第九の合唱団頼んだら、来たい人ってのはその時だけ歌う人っていうのは来ますよ。来るけど、もし第九を今後発展させたいなら、日常的な組織として、門真で第合唱団というものを作っていないと難しい。

【館長】

先ほどでも副会長がおっしゃったとおり京阪沿線っていうのは実はもう私やってまして、京阪6市で合同で若手のアーティストを公募して審査して、6市のホールでコンサートをやるっていう活動をしています。これには京阪さんも本当にすごいちっちゃな額ですけど協賛と、一緒に共催として入っていただいて、あと枚方信用金庫さんとエイチ・ツー・オー商業開発って、スーパーのイズミヤさんが一緒に共催に入っていただいて、6市のホールと3つの京阪沿線の企業が協力くしてやるっていうイベント一昨年からやってます。ただ去年と今年は6市で同時に2月、3月でやったんですけど、毎週土曜日ぐらいの形で。やっぱり数が一気に増えると、募集の人達の割り振りがですね、それでも40組ぐらいの募集はあるんですけど、1つのコンサートで3アーティスト、4アーティストいうと結構ハードルが下がっちゃうんですね、審査基準が取り合いになってしまっ。なので来年度からは、3市ずつを1年ごとに交代でやって、残りの開催しない3市はいろんな後方の支援だとか、そういうのをやろうみたいな形でやってまして、なので副会長がおっしゃっていた京阪沿線っていうのはこれが1つのきっかけになってちょっと面白くはなってきたなっていう感じはします。守口、門真、寝屋川、枚方、八幡、宇治という形でやっています。

【会長】

ありがとうございました。時間もございますので、感想だけでもちょっとだけ。

【D委員】

皆さんのすごい忌憚な意見を聞けて、すごく面白い会議だなと思ってます。一方で、初めて門真市の審議会に参加させていただいて、門真の個性っていうか特徴って一体どこなんだろうな、まだちょっとわかりにくいな。例えば今話題で言えば茨木市とおにクルっていうのを作って、子どもの子育て全面支援みたいな形で、PRもすごく行き届いてるなと思います。それに若いアーティストたちも関わっていくっていうのが、もう筋道が見えた。

豊中とかだったらね、ご存知のように音楽のまちっていう形で創造都市の認定も受けてるっていうようなところで、すごく市の名前とその文化の個性っていうのが結びついて人々に伝わってるなと思うんですけども。門真こんなにやってるのに市のイメージと結びついてはいなくて、もったいないというのがもうものすごく思うんですが。

すぐれた音楽なり、あるいは芸術作品を見せる・鑑賞できる場所なのか、でもこのまちの個性とかあるいは子どもたちがちょっと減ってるみたいな話を聞くと、市民が何かしら動いているまち、市民が作っていくまちだみたいな形での個性の作り方、動き方っていうのもあるんじゃないかなと思います。例えば私いろいろそういう全国そういう取材してまちなかを回ることが多いんですけども、伊丹の方は劇場閉まったりはしましたけれども、音楽とバルを組み合わせたものとか、今すごい面白いなと思うのは、遠いですが、秋田市の芸術創造館っていうところが、市民たちと芸術のハードルがもはやゼロ、段なし。市民の皆さんが何かちょっとやりたいと思ったことがすぐできるっていうような環境づくりを先鋭的に進めてるところなので、できれば見学とか言ってほしいなと思います。で、市民活動っていうところにベースを置いてくとしたら、副会長おっしゃってたような日常的な組織っていうもの、それがすごく有効になるんじゃないかなと思って。例えばこのフェスの中でも、ボランティアさんが活動してて、これ無茶苦茶おいしい。このボランティア組織がこれだけじゃなくって、いろんなところに関わるような形での門真何とか団みたいな応援団みたいな形の関心のある人のネットワークを作っていけると、すごく強いんじゃないかなと思います。今年だったら例えば瀬戸内国際芸術祭、これ「こえび隊」というボランティア組織がものすごく強いです。あれが大事。みんな繋がってるんですよ。全国的にその人たちで何かこう、ことを起こしていったりとか、お互い誘い合って展覧会とか、こういったコンサートとかも行ったりとかいうような。このボランティア組織っていうようなもの、市民がハードル低く参加しているところに、ここ（計画）にも書かれたような文化資本っていうものを獲得していく機会があると思うので、そちらの方を何らかの形で見えるように、見える化、ネットワーク化、その人たちがやってることを取り上げていくと同時に、こちらからやってることもその人たちに届くような仕組みができれば、かなり大きな人数が動くんじゃないかな。そしてまちづくりも変わってくるんじゃないかなというふうに思いました。

あと、やっぱりこれ本当によくできてる文化振興計画だなあと考えていて、いろいろね、難しいところもあるかもしれませんが、一番はつきりここまで打ち出してるんだと思ったのが、市役所内部での理解の普及っていうところで。本当にね、文化のこと市の財務課に言

うのとかめっちゃ大変やと思うので、ここが入ってるのはすごくいいなと思うので、ぜひ何かしら進んだ文化事業をやっているところというのを視察に課を越えてセットで行かれたりすると、いろいろそれぞれの課の人たちが得ていくものってのは変わってくるんじゃないかなと思うので、ぜひこの事業とか、この計画というものを、強く推し進めていただきたいなと思いました。すみません、長くなりました。

【会長】

ありがとうございました。C先生どうですか。最後に手短に一言。

【C委員】

僕らのその周りの環境でも、美術のお祭りみたいな形でそういう東京の大きなギャラリーが中心になって、先ほど言われてましたけど、瀬戸内なんかのね。すごくお祭り好きの、お客さん好みの有名な方が、ちゃんと賑やかなことに持っていきはるみたいな、それに対して行政がお金払って、そういうふうな商品性やから。実はあんまりそんな感じの温度のことが好きじゃないので（私自身が）、行ったことないんですけど。申し訳ないけど、本当に僕はその瀬戸内ってもう何年この業界において何で見にいけへんねんみたいな感じのことと言われるんですけど、そないに人気になったら、何ていうかな、そない皆さん行きはるねんやったらそちらでどうぞみたいなのところが中にある。何かその僕の根っこにあるアンダーグラウンドなところな、幼稚みたいな、先ほどもおっしゃってましたけど。どこかで閉じてて何が悪いねんみたいな、この年になってまだそんなところあるみたいな。

それと今目的に持っておられるその温度の差にこれどうしたものかなと思って先ほどからお話聞かしていただき、とはいえそれなりに世間に彫刻を置くとか、皆さんに見てもらうみたいなことの仕事としては取り組んで、大真面目にやっていますので。何かしら関わられてここで何かお役に立てるようなことあるのかなと思って、ゆっくり考えてますけど。得意じゃない分野のことやなど。

【会長】

創作そのものに関わっておられるということで、また貴重なご意見いただければと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。今お話あったような形で、特にこの4本柱のところを検証しながら進めていただいているということで、これは非常に結構なことだろうというふうに思いますし、こうやっていろんなご意見を踏まえながら、これまた検

証を続けていってやったら結構かなと思いますのでよろしくお願いします。

【事務局】

この計画につきましては、令和7年度におきまして中間見直しの予定をしておりますので、見直しのための、審議会を来年度開催させていただきたいと思っております。3回程度を予定しておりますが、委員の皆様お忙しいとは思いますが、ご出席のほどよろしくお願いします。よろしくお願いします。

【会長】

どうもありがとうございました。それではご意見いただきましたし、またなかなか言い足りない先生方もおられたと思いますが、事務局の方に何か追加のご意見だとかあればまた送っていただいて、また委員同士で共有していただければと思っておりますので、この場に限らずいろいろご提供いただけたら。最後にどうしても時間が限りがございますので、よろしくお願いします。後はよろしいですかね。次は。

【事務局】

来年度は3回ほど。

【会長】

3回ですね。またいろいろご意見あろうかと思いますが、よろしくお願いします。今日はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。